

労働局長がベストプラクティス企業を訪問しました

岩手労働局（局長 稲原俊浩）では、11月の「過重労働解消キャンペーン」の一環として、地域において長時間労働の削減や働き方改革の実現に向けて積極的に取り組んでいる企業を「ベストプラクティス企業」とし、11月16日二戸市の「株式会社小松製菓」を訪問、「働き方改革」の要請、事業場で行っている社員に対する取組内容についての紹介、社員との意見交換、事業場の見学を行いました。

岩手労働局では、今後とも過重労働解消を始めとする「働き方改革」の取組を進めていきます。

企業（法人）の概要

法人名 株式会社 小松製菓

所在地 本社 二戸市石切所字前田41 - 1

従業員数 268名

事業内容 南部せんべい等製造販売



巖手屋の南部煎餅



会場となった
小松シキ・記念館

長時間労働の削減や働き方改革に向けた主な取組内容

- ・ ICカードによる労働時間把握で、労働時間の実績や年休の取得状況をデータ管理
- ・ 社内LANを活用し、長時間労働となりそうな者についての管理徹底を部門長に指示
- ・ 業務の効率化に資するための研修会の開催
- ・ 社内報を活用した育児・介護休暇の取得促進に係る周知
- ・ 小学校3年生終了時までの育児短時間勤務制度の導入
- ・ 保育料補助（月額1万円）制度の導入



完成間近の新社屋



1 「働き方改革」の要請を行いました

「働き方改革」の推進を要請



稲原局長 小松社長

労働局長から小松豊代表取締役社長に「働き方改革」の推進について要請を行いました。

労働局長から、「働き方改革」の必要性を説明した後、労働環境を整備した魅力的な企業を増やしていきたい、地域のみならず県内企業のロールモデルとして、引き続き、働き方改革の推進に取り組んでいただくよう伝えました。

小松豊社長からは、「時代の変化に合わせ、機械の導入による作業の効率化など働き方を変えてきた。また、育児短時間勤務や保育料助成などの制度を構築しても、社員が使用する風土がないと意味がなく、意識を改革し定着してきた。今後も働きやすい職場づくりを進める。」とのお話がありました。

2 企業の取組について説明を受けました



説明をしていただいた太布常務

企業の取組の説明に先立ち、まずは南部煎餅についての紹介がありました。

- ・小麦粉を原料とした煎餅の一種で、八戸南部氏が藩主だった旧八戸藩地域に伝承の焼成煎餅
- ・南北朝時代（1336年～1392年）南朝の長慶天皇が名久井岳（現三戸郡南部町）のふもと長谷寺を訪れ食事に困った際、家臣の赤松助左衛門が近くの農家から「そば粉」と「ゴマ」を手に入れ、自分の鉄兜を鍋代わりに焼き上げた物を天皇に食事として出した。これが南部煎餅のはじまりとされる（最有力説）

その後、働き方改革等の取組について説明を受け、社員に対する主な取り組みを丁寧に教えていただきました。

- ・育児短時間勤務制度：子供が小学校3年生終わるまで1日の就労時間6～7時間の短時間勤務
- ・保育料補助制度：保育所などの保育料助成、子供1人当たり月額1万円支給（フルタイム勤務の場合）
- ・研修制度の充実etc

最後にまとめとして、社員を家族の一員として迎え入れ 社員みんなの顔が見える機会をつくり 社員皆さんの幸せを追求する これが働きやすい環境をつくると考えていますとのお話がありました。



取組内容の説明の様子

3 社員と意見交換を行いました

(株)小松製菓で働く社員3名からお話を伺いました。

育児休業を取得した男性社員は、職場は育休の取得に理解があり、気兼ねすることなく育休を取得することができた。妻に任せっきりだった家事を育休中にやって、その大変さを実感し、今は率先して行うようになったと話がありました。育児短時間勤務制度を利用している女性社員からは、制度に感謝している話があり、社内報の編集を担当している女性社員からは、記事をよく読んでもらうため活字の大きさを変えてクイズとしたことなどや、出来上がった時の達成感について話がありました。

社内報をみる局長と労働基準部長



労働局長と社員との意見交換の様子

4 職場を見学しました

2 door工場&店舗へ移動し、製造ラインや商品売り場を見学しました。従業員みなさんが笑顔で、一生懸命働いている姿が印象的でした。とても良い職場の雰囲気ですね。

2 doorという名称は、「二戸」を英語読みしただけではなく、煎餅とチョコレートのいわゆる2本柱で、店舗入口がそれぞれの売り場に1か所ずつ合計2か所設けられていることからきているそうです。



製造ラインの説明を受けている様子



商品説明の様子



最後に社長と局長のツーショット



若い人が楽しく、安心して働ける環境づくりを心掛けている
地元の素晴らしい企業でした。
中小企業でも「できることから」はじめませんか。